

(2) 現場番号 愛媛 214

【コメント】

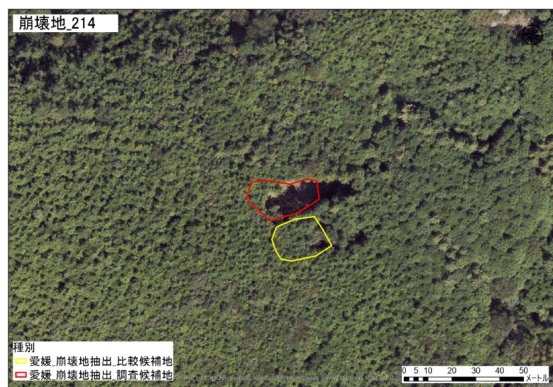
崩壊・根系) 現地調査の崩壊深度から 1~1.5m 程度と想定される。根の伸長は 0.5m 程度である。土検棒では薄くしか測定されないのは、レキが表土直下の土壌中に含まれているからである。

森林・施業) 森林簿に施業の記述なし。林内も植栽当時の配列がほぼ残り、密度が高く暗い森林である。20 年生までに除伐を 1 回程度行った可能性はある。

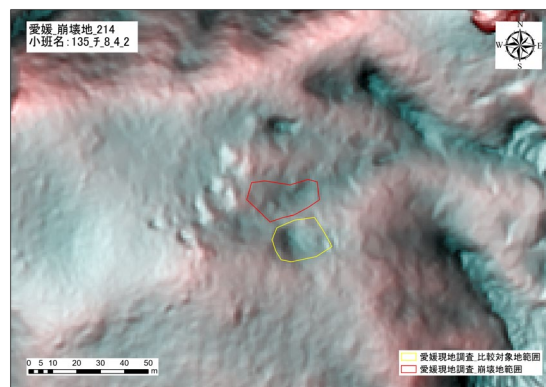
2,500 本/ha 相当で LP の値と大きく異なる。樹冠がうっ閉していることなどから劣勢木などが航空 LP では抽出できなかった可能性が高い。

その他) 間伐していない壮齢林であるといえる。

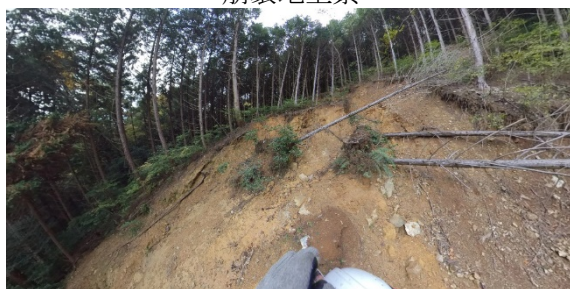
災害後オルソ



微地形図 (災害前)



崩壊地全景



現地写真 崩壊地



小班	135 子 8 4 2
樹種	ヒノキ
林齢	36
最終施業年	記録無
崩壊幅	17.2
崩壊延長	23.6
崩壊面積	328.4
尾根谷度	平均 0.7
傾斜	平均 22.7
雨量	72時間 413.4
地質	砂岩頁岩互層 (四万十帯・中生代)
森林土壌	森林簿 適潤性褐色森林土 (黄褐色系)

		LP	現地
崩壊深度[m]	源頭部	0.9	3.0
	平均値	1.0	
	中央値	1.0	
	最大値	2.8	
	根系深度		0.5
土検棒	平均		0.3
	最大		0.4
LP	平均胸高直径[cm]	18.3	19.9
	平均樹高[m]	13.7	13.2
	立木密度[本/ha]	1,400	2,469
	断面積合計[m ² /ha]	36.8	76.5

(3) 現場番号 愛媛 232

【コメント】

崩壊・根系) 現地調査の崩壊深度から 1~1.5m 程度と想定される。根の伸長は 0.6m 程度である。土検棒では薄くしか測定されないのは、レキが表土直下の土壌中に含まれているからである。

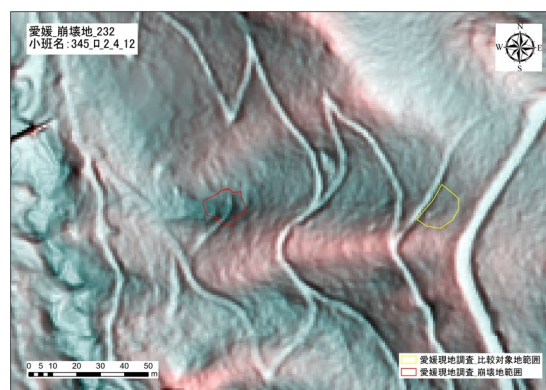
森林・施業) 51 年生のヒノキ林である。森林簿に 2008 年の施業とあるが、それ以前の施業は記録されていない。災害時に施業後 10 年経過している。森林作業道も残り、林分には切株もあり施業は適宜行われていると想定される。現地では 1,380 本/ha、LP では 900 本/ha 相当と他と同様に航空 LP の値が低くでる。施業後 10 年以上たち、樹冠が閉塞してきているためと想定される。また、下層植生(低木)がよく生育していることも関係していると考えられる。

その他) 崩壊地の辺りは谷に近く、土壌も湿潤であった。

災害後オルソ



微地形図(災害前)



崩壊地全景



小班	345_2_4_12	
樹種	ヒノキ	
林齢	51	
最終施業年	2008	
崩壊幅	14.7	
崩壊延長	15.5	
崩壊面積	180.4	
尾根谷度	平均	-3.6
傾斜	平均	28.1
雨量	72時間	412.1
地質	砂岩頁岩互層(四万十帯・中生代)	
森林土壌	森林簿	適潤性褐色森林土

		LP	現地
崩壊深度[m]	源頭部	0.7	2.0
	平均値	1.1	
	中央値	1.4	
	最大値	2.4	
	根系深度		0.6
土検棒	平均		0.9
	最大		1.4
LP	平均胸高直径[cm]	23.9	22.4
	平均樹高[m]	17.4	18.6
	立木密度[本/ha]	900	1,380
	断面積合計[m ² /ha]	40.4	54.4